

## 水辺のゴミ問題解決にスポ GOMI が果たす役割に関する研究 Research on the role of sports GOMI to solve waterside trash problems

○松浦咲希<sup>1</sup>, 桜井慎一<sup>2</sup>, 寺口敬秀<sup>2</sup>, 海老原碧<sup>3</sup>\*Saki Matsuura<sup>1</sup>, Shin-ichi Sakurai<sup>2</sup>, Takahide Terakuchi<sup>2</sup>, Midori Ebihara<sup>3</sup>

Coastal cleanup activities for solving the trash problem at the sea and rivers need many participants of citizens. On the other hand, Spo GOMI, which started in 2008, has held a trash picking tournament and awarded prizes for participation promoting from citizens. The purpose of this study was to gain the knowledge about advantage and future tasks of Spo GOMI. In order to find out that, we did questionnaire survey for organizer of Spo GOMI and municipality where Spo GOMI was held. As a result, we confirmed that Spo GOMI was held over 100 times at ocean or river and there were some ripple effects to increase participants of citizens for the cleaning activities.

### 1. 研究背景および目的

わが国の海洋に流出したゴミの量は年間で2～6万トンと言われ<sup>[1]</sup>, 世界的に深刻な問題となっている。現在, 海や河川沿いでは, 清掃活動などを行っている場所もあるが, 活動の継続や発展には多くの市民の参加が不可欠である。これに対し, 一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ<sup>[2]</sup>では, ゴミ拾いの意識を一新させ, 環境問題を幅広い世代の人に知ってもらうため, 「ごみ拾いはスポーツだ」をテーマに, 拾ったゴミを点数化して競い合う「スポ GOMI」というゴミ拾い大会を2008年から開催している。この活動は, 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会でも東京オリンピック開催に向けた活動として計3回実施されており<sup>[3]</sup>, スポ GOMI の運営団体である, 一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブも2019年12月に環境大臣賞を受賞するなど, 新たな清掃活動の形として期待される。

そこで本研究では, 水辺のゴミ問題の解決策の一つとしてスポ GOMI が果たす役割を明らかにすることを目的とし, スポ GOMI の開催実態や, 実施したことによる地域への効果の把握を行う。

### 2. 研究方法

スポ GOMI の概要については, 運営団体である一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブに対するヒアリング調査によって把握した。さらに, スポ GOMI のホームページ<sup>[2]</sup>に掲載されている過去の大会情報より開催場所を抽出し, 大会を実施した自治体に対してアンケート調査を行った(表-1)。

### 3. スポ GOMI の概要

スポ GOMI はチーム制で行われ, 1チーム5人で構成する。制限時間は60分でゴミ拾いのエリアに制限は

表-1 調査概要

調査期間	2019年11月25日～2019年12月1日	
調査対象	スポ GOMI 運営団体 (一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ)	スポ GOMI 開催地の自治体
調査方法	電話による ヒアリング調査	e-mailによる アンケート調査
調査内容	スポ GOMI の概要	・大会を行ったきっかけ ・スポ GOMI 実施による地域への効果や課題
有効回答数	60.0%(3/5)	

表-2 スポ GOMI の開催実績

スポ GOMI の設立年	2008年5月
スポ GOMI の主催者	自治体
各大会の担当者	1名
スポ GOMI の過去の開催数	約940大会
海や川が対象の大会数	約100大会

ない。拾ったゴミをポイント化し, より高いポイントを獲得したチームが優勝となる。なお, それぞれの大会によってルールを変更・追加もすることができる。過去に行われていたスポ GOMI の大会を行った実績を表-2に示す。

### 4. 結果および考察

自治体へのアンケート調査結果を表-3に示す。

#### 4-1. 大会概要

問1で大会の参加人数を聞いたところ, 100人を超える参加者が集まった大会が3件中2件あった。一方, もうひとつの自治体では34人という比較的少ない人数で行われていることがわかった。

また, スポ GOMI を行ったきっかけ(問2)は, 3件とも全て「2-1. 海にあるゴミを減少させるため」を回答した。また, 通常のコスモ活動より人が集まると考え, 「スポ GOMI という違う切り口でゴミ拾いをすることで住民の海岸清掃への意識改革が出来る」と考えた団体があった(団体A)。さらに, 「街や川からの散乱したゴミが海辺に影響している」ということを住民に周

1: 日大理工・学部・海建 2: 日大理工・教員・海建 3: 日大理工・院・海建

知らせるためにスポ GOMI を行おうと考えた自治体もいた（自治体 C）。

参加者の集め方（問3）では、3件とも全て「3-1. チラシを配った」「3-2. ホームページに記載した」と回答した。他にも「3-6. ラジオでの PR や新聞に広告を載せる」（自治体 C）、「他の商店会に直接呼びかける」「開催市町村の広告媒体による呼びかけ」（団体 A）など工夫をし参加者を集めていた。

#### 4-2. 大会を開催するに向けた工夫

大会を開催するにあたり安全面に考慮したこと（問4）では、「4-1. スポ GOMI のルールや指定したエリアを記載してあるルールブックを配布した」が3件中2件あった。他にも「4-2. スタッフを多めに配置した」（団体 A）や、「4-3. 安全面に十分留意するよう委託団体に指示した」（自治体 C）をした自治体もあった。さらに、軍手を配布・着用を呼びかけたり、ケガを防ぐため流木、木端は対象外にする大会もあり、楽しく、かつ安全に実施するための工夫がされていた。

#### 4-3. スポ GOMI 実施による効果

問5でスポ GOMI を行ったことで何か効果を感じたか聞いたところ、「5-1. 地域や海の知名度が上がった」「5-2. 他の地域清掃活動の参加人数が増えた」と3件中2件が回答した。他にも「5-3. 散乱ゴミを住民に周知できた」という回答や、「他の地域清掃活動の参加者が増えた」「ゴミ拾いを積極的に行う団体が新たに設立した」など、スポ GOMI を行ったことによる波及効果も挙げられた。

#### 4-4. 他の水辺のゴミ問題の対策

ゴミを減らす運動として他のイベントや対策を行ったか（問6）に対しては、どこの自治体もスポ GOMI 以外にボランティア活動や地域清掃活動を行っていた。例えば、町内会や学校、企業等に普段行っている地域清掃活動の紹介をしたり（自治体 C）、スポ GOMI で知名度が上がったことを活かして他の活動を行うといった取り組みが行われていた。

問7で今後も機会があれば海や河川を対象にしたスポ GOMI を開催したいか聞いたところ、「7-1. 開催したい」と回答したのは2件で、1件は「7-2. 開催は考えていない」と回答した。「7-2. 開催は考えていない」と回答した理由としては、参加者が多く集まらなかったことや、効果を多く実感したイベントが他にあったという意見であった（自治体 C）。

問3で「3-3. Twitter 等の SNS で宣伝した」と回答した2件は「7-1. 開催したい」と回答したが、回答しなかった自治体 C は「7-2. 開催は考えていない」と回

表—3 自治体へのアンケート調査結果

内容質問	回答結果		
	A	B	C
<b>問1：大会の参加人数</b>			
	25組 125人	28組 123人	11組 34人
<b>問2：スポ GOMI を行ったきっかけ</b>			
2-1. 海にあるゴミを減少させるため	●	●	●
2-2. 通常の清掃活動より人が集まると考えたため	●	●	
2-3. 海の知名度を上げるため	●		
2-4. 海岸清掃の意識改革	●		
2-5. 散乱ゴミを住民に周知させるため			●
<b>問3：どのように参加者を集めたか</b>			
3-1. チラシを配った	●	●	●
3-2. ホームページに記載した	●	●	●
3-3. Twitter 等の SNS で宣伝した	●	●	
3-4. 張り紙を貼った	●		
3-5. 他の団体に直接呼びかけた	●		
3-6. ラジオでの PR や新聞に広告を載せる			●
<b>問4：安全面に考慮したこと</b>			
4-1. スポ GOMI のルールや指定したエリアを記載してあるルールブックを配布した	●	●	
4-2. スタッフを多めに配置した	●	●	
4-3. 安全面に十分留意するよう委託団体に指示した			●
<b>問5：スポ GOMI を行ったことで感じた効果は何か</b>			
5-1. 地域や海の知名度が上がった	●	●	
5-2. 他の地域清掃活動の参加人数が増えた	●	●	
5-3. 散乱ゴミを住民に周知できた			●
<b>問6：ゴミを減らす運動として他のイベントや対策を行ったか</b>			
6-1. 他のイベントを行った	●	●	●
6-2. 新聞広告で啓発			●
6-3. 住民に呼びかけ			●
6-4. 職員による定期的な清掃活動			●
<b>問7：今後も海や河川を対象にしたスポ GOMI を開催したいか</b>			
7-1. 開催したい	●	●	
7-2. 開催は考えていない			●

答したため、チラシ配りやホームページ記載の他に SNS 等の活用が集客に効果的と考えられる。

#### 4-5. スポ GOMI の開催者からの意見

海のゴミ問題解決に対して役割や効果についての意見を聞いたところ、3件とも全て「お年寄りから子供まで幅広い年齢、性別を問うことがなく、誰もが楽しむことが出来るスポーツとしてとてもいい活動」だと回答している。また、「競技の制限時間が60分ということや、地元で開催され気軽に参加できることがメリット」だという意見もあった。さらに、実際にスポ GOMI に参加したことで水辺のゴミ問題に関心を持ち、何度もスポ GOMI に参加してくれた参加者もいた。

一方で、スポ GOMI の実施の課題として、ボランティア活動としているのに優勝者に景品が出ることへの批判や、依頼者の高齢化が進み継続が難しいと感じる団体がいること、また運営団体に人件費を払わなくてはいけないこと、上手く人が集められなかったこと、その時の対処など、課題点も幾つか挙げられた。

#### 【参考文献】

- [1] 環境省：「海洋ごみをめぐる最近の動向」, [https://www.env.go.jp/water/marime\\_litter/conf/02\\_02doukou.pdf](https://www.env.go.jp/water/marime_litter/conf/02_02doukou.pdf), 2018年9月7日
- [2] 一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ：ゴミ拾いはスポーツだ, <https://www.spogomi.or.jp/>, 2019年12月5日閲覧
- [3] 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技組織委員会：東京2020 参画プログラム, <https://participation.tokyo2020.jp/jp/>, 2019年6月12日閲覧